



今年もあと少し。焦らず、くじけず、前向きに！

周囲の山々も雪化粧をし、本格的な冬の到来が感じられる季節となりました。2018年も残すところ、あと一ヶ月を残すのみです。「師走」と言われるように慌ただしい月ではありますが、今年一年を振り返ると同時に、来年への準備をする大切な期間であってほしいと思います。12月に入り、街中はクリスマスモードとなり、クリスマスにちなんだ音楽を耳にすることと思います。音楽には季節感が感じられるものがいくつかありますが、今回はこの季節に演奏される有名な一曲についてのエピソードを紹介したいと思います。

年末に演奏されるクラシック音楽の定番である「第九」は、ベートーヴェンが晩年に作曲した有名な交響曲です。ベートーヴェンはシラーの詩『歓喜に寄す』を読んで感銘を受け、22歳の頃にこの詩に曲をつけようと思いついたのでした。その後、長きに渡って構想を温め続け、実際にこの曲の作曲に取りかかったのは45歳の時、そして完成したのは54歳の時だと言われています。そしてその二年後、56歳でベートーヴェンは生涯を閉じました。



詩を読んで感動した22歳から、曲を完成させた54歳までの30年以上の間、ベートーヴェンはどのような人生を送ってきたか知っているのでしょうか。20代後半から持病の難聴が悪化し、28歳の時には最高度難聴者となってしまったことは、有名なエピソードとなっています。音楽家として聴覚を失うという絶望感から、遺書を書き自殺を考えたこともありましたが、彼の音楽への強い情熱により再び生きることへの希望を見だし、次々と傑作を残していったのです。まさに「ピンチ」を「チャンス」に変えた生き方だと思います。

この『歓喜に寄す』の詩は、「人類愛と平和」を訴える内容です。聴力を完全に失っても、「世界が平和であってほしい」「人類は皆兄弟である」というメッセージを、音楽を通して全世界に投げかけたのです。私が一番印象に残っている「第九」は、1989年のベルリンの壁が崩壊し、ドイツが再び統一された時の演奏です。ベートーヴェンの熱い思いにより、世界が一つになったと言えた感動的な名演でした。



私はこのベートーヴェンの「第九」を通して、「苦しい場面においても諦めず努力をすることの大切さ」を感じ取ってほしいと思います。そして、さらに皆さんが「社会に貢献し誰かを幸せにできる人になってほしい」と強く感じます。ベートーヴェンのように「焦らず、くじけず、前向きに」この姿勢で受験を乗り越えてほしいと願っています。

3年次主任 小林 健

保護者のみなさまへ

月日の経つのは早いもので、12月に入りました。この冬は暖冬であり、例年以上の降雪だろう…という便りも聞かれます。3年次生にとって凌ぎやすい冬となることを願っております。

ご家庭でもいろいろな想いが交錯する冬であろうとお察しいたします。そのような時だからこそ、いつも通り家庭で心温まるひとときを持っていただきたいと思います。元気づける言葉が見つからなくても、黙ってじっと見守っていてあげることが、受験生である生徒にとって一番の支えになるだろうと思います。保護者の皆様におかれましても、心労や負担がかかる時期ではありますが、ご家庭ではおおらかに構えていただき、子どもを信じ、励ましていただければと思います。

これから生徒との面談を通して、受験計画を立てていきますが、ご家庭でも十分に話し合いを持たれますようお願いいたします。三者面談を希望される方は、担任までご相談ください。

12月行事予定～今年もあと一ヶ月！一日一日を大切に過ごしましょう！～

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	土		全統プレテスト	16	日		
2	日		駿台ハイレベル模試(外部)	17	月	B	きずなの日
3	月	B	きずなの日 健康調査開始	18	火	A	
4	火	B		19	水	A	
5	水	B		20	木	B	推薦内定者集会
6	木	B		21	金	B	
7	金	B		22	土		
8	土		修学旅行結団式(2)	23	日		天皇誕生日
9	日			24	月		振替休日
10	月	A	修学旅行(2)	25	火	行	休業前集会 大掃除 音楽発表会
11	火	A	修学旅行(2)	26	水		冬季休業開始
12	水	A	修学旅行(2)	27	木		
13	木	A	修学旅行(2)	28	金		
14	金	A		29	土		校内完全閉鎖(~1/3)
15	土			30	日		
				31	月		

◎今回は、1組副担任の宮川卓大先生の寄稿を掲載します。

「本気になっているみんなへ」

12月に入り、授業はもちろん日常生活の中でもみんなから緊張感が伝わってくるようになりました。本気になっているみんなへメッセージを送ります。

○前向きな気持ちを持つ

センター試験が近くなり、授業で問題演習の機会が増えてきていると思います。そこで分からない問題に出会った時にどのように考えますか。例えば、

- ①分からなかった・・・どうしよう。もう駄目だ。
- ②本番の前に分からない箇所が見つかって良かった！

少しの違いに思えるかもしれませんが、塵も積もれば山となります。心の健康を保つために、物事を前向きにとらえましょう。

また、どうしても気持ちが落ち込んでしまうときがあると思います。その時は家族、友達、先生を頼ってください。受験は団体戦です。みんなは素晴らしい仲間と支え合って生活していることを思い出してください。

○真剣と深刻は紙一重。緊張感を楽しもう。

“緊張”という言葉を聞くと、マイナスのイメージを持つ人が多いと思います。しかし本当にそうでしょうか。例えば、先生から「緊張感を持って生活しよう」などと言われたことはありませんか。つまり、上手く付き合えば緊張はプラスに働く感情なのです。プロのスポーツ選手は、大事な試合前のインタビューで「楽しめます」といいます。それは、「緊張を払拭して集中ゾーンに入りたい」という意味であると思います。

では、どのように緊張と付き合えばよいのでしょうか。緊張の原因は何か。それは頑張ってきた結果を出したいという気持ちだと思います。つまり「**緊張とは努力の証であり、本気になっている証拠**」であると思います。緊張しては駄目だ！と緊張から逃げるのではなく、緊張を努力の証として受け入れると、緊張をパワーに変えられます。何か1つのこと(受験)に、ここまで頑張る経験は人生においてもそうあることではないです。ぜひ緊張を楽しんでください。



最後に、心だけではなく体の健康も大切です。規則正しい生活を心がけ、心身ともに万全の状態受験に挑みましょう。